

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立深井中央中学校
校長 泉谷 浩幸

中学校区におけるめざす子ども像

「自らを律し、自ら学び続ける子」

令和7年度 重点目標 ●「学ぶ姿勢」の育成と魅力ある授業づくりの推進⇒ 落ち着いて学ぶ環境を整え、生徒一人ひとりの「強み」に着目した魅力ある授業を通して、学ぶ喜びを実感できるようにする。
 ●「生徒の活躍の場」づくりと「自己有用感」の醸成⇒ 授業、部活動、委員会活動、生徒会活動など、あらゆる教育活動において、生徒が主体的に関わり活躍できる場を積極的に設定し、自治の力を育む機会を創出する。
 ●「心の教育」の深化と「規範意識」の育成⇒ 人権教育・道徳教育を基盤として、学校生活全体で「自尊感情の育成」と「正しい行動の習慣化」を図る。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢の定着を目指す。
 ●「学力向上と学習環境の整備」⇒ L-プロジェクト⇒「教師が好き、教科が好き、学ぶことが好き、繋がりが好き」という4つの“好き”を大切に、学ぶことの楽しさを実感できる授業と温かい人間関係づくりを推進する。これにより、『学力向上』と『静謐な学習環境の整備』の両立を図る。

<p>「確かな学び」の現状 生徒との関わりを重視した取組により、意欲的に学ぶ雰囲気が育ちつつあるが、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化が未定着な生徒も見られ、学習への安定した姿勢の確立が課題である。授業中の集中力や規律面においても改善の余地があり、全生徒が落ち着いて学べる静謐な環境の整備が求められる。ICT 機器の活用は進んでいるが、日常的に効果的に使えるよう指導の工夫が必要である。教師と生徒の関係づくりや声掛けを重視した授業改善を通じて、学習意欲を高め、「学ぶことが楽しい」と感じられる授業づくりを進めていく。また、家庭との連携や情報発信を強化し、生徒の学力定着と主体的な学びの定着を図る。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 日常の教育活動を通じて多様性を尊重し、互いを認め合う人権感覚の醸成に努めてきた。生徒の人権意識は着実に高まりつつあるが、今後は一人ひとりが自分自身の価値に気づき、他者よりよい関係を築く力をさらに伸ばす必要がある。一方、体力面では全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では多くの種目で全国平均を下回る結果となった。この問題を対処するため、体づくりの視点を取り入れた体育授業や、運動への興味を高める授業改善が求められる。体育的行事の工夫や、日常的な運動習慣づくりを含め、全学的に体力向上への意識を高める取組が重要である。心と体の両面から、主体的に健やかに成長できる環境整備を今後も推進する。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～9月末)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	知的探求	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子供の育成	●個別最適化された学びの場を提供し、生徒が学ぶスタイルを選択できるようにする。そのために、ICT 機器を自然と選択肢に入れられるように普段の教育活動において使用機会を多く取り入れていく。	「自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問項目への肯定的な回答が70%を超える。	1. 各種アンケート 2. 授業の様子	1. 3学期 2. 通年			
		生徒が授業を好きになる、深く学びたくなる、繋がる、授業を目指し、教職員全員で授業改善を図る。(Lプロジェクト)	●Like・Love (好きになる) 教科や授業を「好き」になるために、実生活に結びついた本質的な問いを課題として設定する。また、教員との信頼関係が学びへの意欲に一定の影響を及ぼすと考えられるため、日頃から丁寧な関わりを大切にする。	統一テストのアンケートにおいて、「〇〇(教科)の授業は好きですか」という質問項目に対する肯定的な回答が70%を超える。	各種アンケート	通年			
	●Learn (深く学ぶ) 学びを深めるために、個人・ペア・グループで探究的な課題に取り組む授業を展開する。ICT の活用を通じて、意見の共有や自分の考えの表現を円滑に行えるよう、必要なスキルの育成にも力を入れる。		授業参観・研究授業および習熟において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年				
	●Link (つながる) 授業内で他者とのつながりを意識させ、相手の考えを尊重しながら課題に取り組む姿勢を育てる。さらに、教科間のつながりを意識した授業構成により、生徒が見通しを持って学べるよう支援する。		授業参観・研究授業および習熟において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年				
		★「小学校で何を学んでいるか」「中学校で何を学ぶことになるのか」を共有し、教員が見通しを持って指導できるようにする。	小中連携の活動日の増加や、従来よりも発展的な研修を持つことができたか。	実施状況 研修計画	通年				
豊かな心・健やかな体	社会実践力の向上	他者との関わりを通して社会性と主体性を育み、優しさと厳しさを兼ね備えた信頼関係を築く	●日々の声掛けや行動観察を通して生徒の「強み」を見つけ出し、学級・学年・学校で活躍できる場を意図的に設定する。 ●「優しさ」と「厳しさ」のバランスを大切にしながら、教職員全体で「かわり貯金」を増やし、信頼関係の土台を築くとともに、生徒の社会性と主体性の育成を図る。	「良いところがある」「得意なことをしている」「学校が楽しい」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	IRT 調査等 見取り	3学期 通年			
		人権尊重の精神を育む	●すべての行動、言動において人権意識・道徳意識をもって取り組む。	「友達を傷つけないようにする」「道徳の授業は大切だとおもう」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断 IRT 調査等	3学期			
	生徒習慣の改善	・生徒指導の充実を図り、生徒が安心して学べる静謐な学校をめざす。	●日々の生活の中で、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全校共通の生活規範として定着させる。 ★教職員が一体となって基本的生活習慣の指導を継続的にを行い、規範意識や自律の力を育む。	「時間を守りベル着ができて」「そうじをしっかりできて」「基本的なマナーが身につけている」と肯定的な回答が75%を超える。	全国学力・学習調査等	3学期			
地域連携	信頼と連携	地域と一体となり、教育の推進を図り、信頼される学校づくりをめざす。	・教育活動などの学校情報を通信やHP・Tetoru 等で情報提供を行う。 ●★PTA、地域連携しながら各行事・地域活動に積極的に参加する。	・学校HP更新を活性化し、10万アクセスをめざす。学校便り500部を地域配布。・中区各種行事への参加や施設への交歓活動の実施。	学校アンケート 実施状況	3学期			

校長より (年度末)	学校関係者評価者から (年度末)
------------	------------------